

(5) 英語

ア 個々の問題の概要及びその通過率

—評価の観点—
 表 現：表現の能力
 理 解：理解の能力
 言・文：言語や文化についての知識・理解

学習指導要領の内容	問題番号	出題のねらい	評価の観点	設定通過率 (%)	通過率 (%)	
聞くこと	1	(1)	How are you today? に対して正しく応答できる。	理解	95.0	85.5
		(2)	Whose を用いた疑問文に正しく答えることができる。	理解	60.0	48.1
		(3)	ほめ言葉に対して正しく応答できる。	理解	60.0	86.1
	2	(1)	まぎらわしい数字の発音を聞き分けることができる。	理解	75.0	72.3
		(2)	物や人の場所を聞き分けることができる。	理解	75.0	46.1
		(3)	2人の人間の動作や状況を聞き分けることができる。	理解	90.0	85.0
		(4)	曜日と状況を聞き分けることができる。	理解	75.0	64.9
3	まとまりのある英文を聞いて概要を理解できる。	理解	50.0	72.6		
書くこと	4	(1)	現在進行形の文を書くことができる。	言・文	60.0	58.9
		(2)	三人称・単数・現在形の文を書くことができる。	言・文	50.0	37.7
		(3)	適切なbe動詞を書くことができる。	言・文	60.0	60.0
		(4)	一般動詞の過去形を用いた肯定文を書くことができる。	言・文	40.0	39.1
読むこと	5	(1)	まとまりのある英文を読んで要点を把握できる。	理解	80.0	89.7
		(2)	まとまりのある英文を読んで指示語のさす内容を理解できる。	理解	60.0	72.7
		(3)	まとまりのある英文を読んで要点を把握できる。	理解	60.0	58.9
	6	(1)	やや長い英文を読んで詳細を把握できる。	理解	70.0	84.0
		(2)	対話文を読んで詳細を把握できる。	理解	70.0	83.9
書くこと	7	(1)	対話に合う What time を用いた文を書くことができる。	表現	70.0	44.9
		(2)	対話に合う What を用いた進行形の文を書くことができる。	表現	70.0	55.2
		(3)	対話に合う否定の命令文を書くことができる。	表現	75.0	81.3
読むこと	8	①	① 場面に合う適切な英文を選ぶことができる。	理解	60.0	82.4
			② 場面に合う適切な英文を選ぶことができる。	理解	70.0	61.7
		(2)	場面に応じた対話の流れを理解することができる。	理解	50.0	67.4
書くこと	9	(1)	When を用いて日本語に合う英文を書くことができる。	表現	40.0	18.4
		(2)	How を用いて日本語に合う英文を書くことができる。	表現	40.0	26.1
		(3)	How many を用いて日本語に合う英文を書くことができる。	表現	60.0	19.9
	10	指示に従ってまとまりのある英文を書くことができる。	表現	30.0	17.0	

イ 個々の問題の教育事務所管内・地区別通過率

問題番号	問題の内容	設定 通過率	東 青 管 内			西 北 管 内				
			青森市	東郡		五所川原市	つがる市	西・北郡		
1	(1)	How are you today ? に対する対応	95.0	87.5	88.1	79.2	84.1	88.2	85.5	78.9
	(2)	Whoseを用いた疑問文への応答	60.0	60.1	60.9	47.4	45.8	51.1	42.9	42.1
	(3)	ほめ言葉に対する対応	60.0	89.9	90.2	86.1	85.4	86.1	88.8	82.7
2	(1)	まぎらわしい数字の発音の聞き分け	75.0	71.7	71.8	70.5	73.2	76.5	73.4	69.7
	(2)	物や人の場所の聞き分け	75.0	51.2	51.6	45.1	49.6	51.8	49.4	47.5
	(3)	2人の人間の動作や状況の聞き分け	90.0	86.5	86.9	80.9	84.9	86.7	82.8	84.3
	(4)	曜日と状況の聞き分け	75.0	68.1	68.9	54.9	62.6	65.4	60.9	60.6
3		まとまりのある英文の概要理解	50.0	75.8	76.1	71.7	71.5	74.1	73.4	67.6
4	(1)	現在進行形の文	60.0	65.4	65.7	60.7	57.5	58.2	53.0	59.5
	(2)	三人称・単数・現在形の文	50.0	42.4	42.7	37.6	44.4	44.9	37.3	48.2
	(3)	適切なbe動詞	60.0	64.0	64.2	60.1	56.8	52.9	49.7	65.1
	(4)	一般動詞の過去の肯定文	40.0	54.3	55.1	42.2	36.6	39.0	32.2	36.6
5	(1)	まとまりのある英文を読んでの要点把握	80.0	91.6	91.9	86.7	90.0	91.3	88.5	89.6
	(2)	まとまりのある英文を読んでの指示語の内容理解	60.0	76.4	76.7	72.3	71.9	74.5	69.2	70.8
	(3)	まとまりのある英文を読んでの要点把握	60.0	60.4	60.4	59.5	59.6	60.3	60.7	58.3
6	(1)	やや長い英文を読んでの詳細把握	70.0	86.1	86.3	81.5	84.5	83.2	87.0	84.3
	(2)	対話文を読んでの詳細把握	70.0	86.1	86.3	82.7	85.1	87.1	84.3	83.6
7	(1)	対話に合うWhat timeを用いた文	70.0	52.3	52.9	42.8	43.8	45.5	42.9	42.6
	(2)	対話に合うWhatを用いた進行形の文	70.0	60.1	61.1	45.1	51.7	56.1	45.0	51.1
	(3)	対話に合う否定の命令文	75.0	81.5	82.2	70.5	85.0	86.9	83.4	84.0
8	(1)	① 場面に合う適切な英文の選択	60.0	85.9	86.2	80.9	78.7	80.3	76.9	78.2
		② 場面に合う適切な英文の選択	70.0	62.8	63.1	59.0	65.9	66.9	69.8	62.5
	(2)	場面に応じた対話の流れの理解	50.0	71.1	71.4	67.1	64.4	63.4	66.3	64.3
9	(1)	Whenを用いた日本語に合う英文	40.0	27.4	27.8	21.4	13.9	15.8	11.5	13.2
	(2)	Howを用いた日本語に合う英文	40.0	35.4	35.6	32.4	23.9	27.7	20.1	22.0
	(3)	How manyを用いた日本語に合う英文	60.0	22.8	23.5	12.1	24.1	28.9	20.1	21.5
10		条件に合うまとまりのある英文	30.0	23.9	24.3	17.9	17.4	21.0	13.6	15.8
教 科 全 体			62.8	64.5	64.9	58.1	59.7	61.6	58.1	58.7

(単位：%)

中 南 管 内					上 北 管 内				下 北 管 内			三 八 管 内			県全体
弘前市	黒石市	平川市	中・南郡		十和田市	三沢市	上北郡		むつ市	下北郡		八戸市	三戸郡		
86.4	89.2	79.6	78.5	88.7	81.8	79.8	89.6	79.4	79.9	80.7	77.0	87.3	87.9	85.4	85.5
36.8	40.8	30.0	35.6	27.5	42.7	44.9	51.7	36.3	41.4	43.4	33.5	52.6	53.6	49.0	48.1
84.7	85.9	81.0	80.4	87.2	84.2	84.0	88.5	82.3	82.8	82.9	82.6	86.1	85.7	87.3	86.1
67.0	68.9	68.1	60.6	63.6	73.5	76.2	78.0	69.0	72.5	72.8	71.4	76.0	77.1	72.3	72.3
31.7	35.6	26.8	23.4	27.5	44.4	48.7	48.8	39.6	43.8	45.3	37.9	53.0	52.5	54.7	46.1
81.5	82.4	82.0	78.2	79.4	84.4	85.5	87.8	81.8	85.8	86.3	83.9	86.6	86.3	87.6	85.0
60.9	63.2	56.6	53.5	62.4	63.5	66.2	66.5	59.7	61.6	61.5	62.1	68.0	67.9	68.2	64.9
69.4	69.5	66.5	72.4	69.6	72.5	73.3	74.7	70.7	72.5	72.5	72.7	72.9	72.7	73.7	72.6
51.3	53.0	43.4	45.8	57.3	52.7	59.2	59.4	44.1	51.4	51.9	49.7	65.4	66.3	62.4	58.9
31.5	35.2	21.4	21.5	35.2	37.4	41.5	39.7	33.0	26.5	28.5	18.6	38.1	39.0	35.2	37.7
59.5	62.9	47.5	54.5	62.1	56.2	59.2	61.9	50.8	50.9	50.3	53.4	62.9	65.2	55.4	60.0
25.5	28.6	15.5	22.1	26.3	34.3	40.0	39.2	27.1	29.2	29.9	26.7	42.7	41.8	45.8	39.1
87.5	87.8	85.5	85.6	90.1	88.2	88.3	89.1	87.8	88.6	88.4	89.4	90.9	91.1	90.4	89.7
69.2	71.4	61.7	67.9	69.3	69.4	71.5	67.8	68.5	70.9	71.5	68.3	75.0	75.5	73.3	72.7
57.5	58.7	53.9	56.4	57.0	59.6	61.8	60.8	57.2	58.5	59.4	54.7	58.2	59.1	55.3	58.9
82.0	82.6	78.8	80.1	84.5	83.3	85.4	84.3	81.1	78.5	80.0	72.7	85.2	86.0	82.6	84.0
80.7	82.2	76.1	81.1	78.5	82.4	84.4	84.5	79.7	79.7	80.5	76.4	85.9	86.3	84.5	83.9
50.0	50.9	41.3	50.0	55.5	34.3	46.5	31.5	26.0	30.2	29.4	33.5	44.9	44.0	48.1	44.9
57.9	62.5	47.5	48.1	58.2	48.5	47.8	56.3	45.1	47.8	50.5	37.3	56.4	58.1	50.7	55.2
78.9	80.6	77.5	72.8	78.5	78.2	82.9	82.9	72.0	78.4	81.4	66.5	84.1	86.9	74.9	81.3
81.1	81.4	81.2	78.8	82.1	80.8	83.2	82.9	77.8	80.1	82.4	70.8	83.6	83.7	83.4	82.4
53.7	55.1	48.0	54.8	52.5	60.9	63.2	66.1	56.9	61.2	64.6	50.3	65.6	68.0	57.7	61.7
69.2	72.2	60.6	66.7	67.8	62.2	66.0	59.2	60.6	61.1	61.9	57.8	68.9	69.0	68.5	67.4
14.4	15.5	12.1	11.9	14.9	16.6	19.8	21.5	11.6	11.0	12.1	6.8	18.6	19.6	15.0	18.4
21.9	24.8	12.1	22.8	19.4	22.6	25.1	29.5	16.9	17.8	19.7	10.6	26.1	24.6	31.2	26.1
9.5	11.1	4.8	6.6	9.0	20.9	25.3	25.5	15.0	15.3	16.4	11.2	23.8	26.3	15.3	19.9
13.0	14.1	7.8	14.4	12.8	16.1	17.8	20.0	12.8	10.9	11.8	7.5	15.7	15.5	16.4	17.0
56.1	58.0	50.6	53.4	56.2	57.5	60.4	61.0	53.5	55.1	56.1	51.2	62.0	62.6	60.2	60.0

ウ 内容・領域別結果の概要

内容・領域	問題数 (問)	通過率の高かった 問題(10問)	通過率の低かった 問題(10問)	各内容・領域 の通過率(%)	設定通過率 (%)
聞くこと	8	1(1)、2(3)、 1(3)、3	1(2)、2(2)	70.1	72.5
読むこと	8	5(1)、6(2)、 5(2)、8(1)①、 6(1)		75.1	65.0
書くこと	11	7(3)	4(2)、9(1)、 4(4)、9(2)、 7(1)、9(3)、 7(2)、10	41.7	54.1

内容・領域別にみると、県の平均通過率と比較して通過率が高かったのは、「聞くこと」、「読むこと」であり、低かったのは、「書くこと」である。

設定通過率と比較すると、これを上回ったのは、「読むこと」である。同程度だったものは、「聞くこと」であり、下回ったのは、「書くこと」である。

エ 評価の観点別結果の概要

評価の観点	問題数 (問)	通過率の高かった 問題(10問)	通過率の低かった 問題(10問)	各観点の 通過率(%)	設定通過率 (%)
表現の能力	7	7(3)	7(1)、9(2)、 7(2)、9(3)、 9(1)、10	37.6	55.0
理解の能力	16	1(1)、5(2)、 1(3)、6(1)、 2(3)、6(2)、 3、8(1)①、 5(1)	1(2)、2(2)	72.6	68.8
言語や文化 についての 知識・理解	4		4(2)、4(4)	48.9	52.5

観点別にみると、県の平均通過率と比較して通過率が高かったのは、「理解の能力」であり、低かったのは、「表現の能力」、「言語や文化についての知識・理解」である。

設定通過率と比較すると、同程度だったのは、「理解の能力」、「言語や文化についての知識・理解」であり、下回ったのは、「表現の能力」である。

オ 個々の問題の主な誤答例とその原因

問題番号	通過率(%)	設定通過率(%)	主な誤答(無答を含む)例 (かっこ内の数字は、抽出した解答全体に占める誤答の割合・%)	
4	(2)	37.7	50.0	play(36.5)、is(11.5)、playing(7.0)
	(4)	39.1	40.0	study(14.0)、was(13.0)、studied(12.0)
9	(1)	18.4	40.0	do you visit(21.0)、無答(15.0)、疑問詞(When)なし(13.5)、are you visit(5.0)、were(was)you visit(3.5)
	(2)	26.1	40.0	What do you come to school?(20.0)、疑問詞(How)なし(16.5)、無答(12.5)、How are you come?(6.5)
	(3)	19.9	60.0	無答(23.5)、疑問詞(How many)なし(13.5)、What time classes(9.0)、How long classes(4.0)
10	17.0	30.0	3文書いているが、どこかに間違いがあるもの(66.0)、無答(4.5)、1～2文のみ書いているもの(4.0)	

● 4(2)について

誤答の原因として、三人称単数現在の s が欠落している「play」と解答したものが36.5%あったことから、主語が三人称単数現在の時の動詞の変化について十分習熟していないと考えられる。また、昨年は主語が「My mother」であったため、Myに影響を受けて s の欠落が多かったものと思われるが、今回は三人称単数の主語として、典型的なHeとしたが、それにもかかわらず通過率37.7%と低かった。

● 4(4)について

誤答の原因として、「study」と解答したものが14.0%あったこと、また、過去のbe動詞「was」(13.0%)、yをiにせずに「studied」(12.0%)としていることから、一般動詞過去形の文の理解と習熟ともに不十分であったことが考えられる。9(1)や10にも関係するが、be動詞と一般動詞の使い分けがしっかりと理解されていないことと、習熟のために繰り返し練習する時間が不足していることが考えられる。

● 9(1)について

誤答の主なものとして、「疑問詞(When)なし」(13.5%)と「無答」(15.0%)が挙げられるが、「do you visit」(21.0%)が一番多い間違いであったことから、過去時制での疑問文didの理解が不十分であったことが考えられる。他の誤答例「are you visit」(5.0%)、「were(was) you visit」(3.5%)から、be動詞と一般動詞の使い分けができるように習熟する必要があると考えられる。

● 9(2)について

誤答の原因として、Whatを使って解答したものが20.0%あり、また、「疑問詞(How)なし」が16.5%、「無答」が12.5%あることから、疑問詞の用法の理解が不十分であると考えられる。

● 9(3)について

設定通過率60.0%に対して、通過率19.9%とその差が一番大きかった問題である。誤答の主なものとして、「無答」(23.5%)と「疑問詞(How many)なし」(13.5%)とが挙げられる。このことから、日本語の「何時間授業がありますか。」に対して、How manyが活用できなかったことと、「授業」を数えられるものとして判断できなかったことが考えられる。さらに、何時間の「何時」や「時間」に影響を受けたと思われる誤答として、「What time classes」(9.0%)や「How long classes」(4.0%)が見られた。5W1Hの疑問詞がしっかりと理解されていないことと、身近な語句のCDやbook以外の語句を使っての練習が不足していると考えられる。

● 10) について

昨年度に続き、まとまりのある文を書く力を見るため3文を書く問題とした。通過率は17.0%で昨年度20.1%に比べて下がっている。さらに、「無答」も4.5%と昨年度1.0%より増えている。誤答ではあるが3文を書いている割合は66.0%となっている。昨年と比較すると9%程低い。英語で表現することに対する意欲は見られる。また、3文中2文正解していた割合は12.5%、1文正解は23.0%である。誤答の原因としては、「is play」、「is like」といったbe動詞と一般動詞の混在、また3人称単数現在のsが欠落しているのが合わせて33.5%、「don't like」の3人称単数現在の否定文の作り方で23.5%であったが、3人称単数現在形の活用について定着が不十分であることが考えられる。さらに、例文にHis name is John.とあったため、「His like ~」や「His doesn't ~」とHisで始まっている誤答が18.0%もあった。文構造を理解させた後も、継続して繰り返し使ったり、書いたりすることが不足していると考えられる。

カ 今後の指導について

内容・領域別にみた課題は、「書くこと」であり、評価の観点別にみた課題は、「表現の能力」と「言語や文化についての知識・理解」である。また、設定通過率との比較からみた課題も、「書くこと」及び「表現の能力」となっている。

このような課題は例年指摘されているものであるが、個々の問題の誤答傾向からみた課題からも分かるように、その原因として、基本的な文法事項と文構造（語順）、5W1Hで始まる疑問文とその応答の仕方及びまとまりのある英文を書く力が十分でないことが挙げられる。

- | | |
|------|----------------------------|
| 【課題】 | ① コミュニケーションを支える基本的な文法事項の定着 |
| | ② まとまりのある英文を書く力の育成 |

以下に、コミュニケーションを支える基本的な文法事項の定着のための指導例を挙げる。

課題①指導例 <三人称単数現在のsの定着について>

☆ 「聞くこと」、「話すこと」及び「書くこと」を関連させた例

クラスで友人を紹介する場面を設定し、インタビュー活動を通して情報をまとめ、発表する基本的な活動。

① インタビューを通じた情報収集

What sport do you like (play)? What fruit do you like? What's your hobby?
How many members do you have in your family? What's your blood type? etc.

② 紹介文の構成

Let me introduce my friend, Taro. He has 5 members in his family. His hobby is listening to music. He likes baseball very much. He is a Giants fan. He likes bananas, but he doesn't like monkeys.

③ 発表練習：定められた時間内に暗記できるまで取り組む。

④ 発表及び評価：示された基準に沿って、発表したり、相互評価表などに記入したりする。

⑤ 質疑応答：必要に応じて実施する。

※ 第三者を紹介するには、必然的に He likes ~. She plays ~. といった英文で紹介するとともに、インタビューでは Do you ~? を中心に、発表について質問する生徒は Does he ~? Does she ~? といった英文を使うことになり、差異を理解することもできる。

※ 三人称単数現在の s の定着については、日常的に Warm up や書き取りなどで繰り返し指導する必要がある。

今後の学習指導においては、主語と動詞の関係、疑問文・否定文の作り方、三人称単数現在の s など文法事項の指導について、小テスト等により何度も繰り返して指導することで定着を図る必要がある。

次に、まとまりのある文章を書く力の育成のための指導例を挙げる。

課題②指導例

〈初歩的な英語を使って、まとまりのある文章を書く力の育成〉

☆ 「読むこと」、「書くこと」及び「話すこと」を関連させた例

三省堂 New Crown 3年 Lesson 4の内容を要約する基本的な活動。

指導方法：内容について、英語の質問に答えることで、自然に要約文ができていくようにワークシートを工夫する。つなぎの語や感想・意見を述べるための文構造をしつかりと押さえる。 ※ワークシートの工夫により、様々な効果的方法が考えられる。

【指導過程概略】

① 本文の内容について英語で答える。

1 When the atomic bomb was dropped over Hiroshima, how old was Sadako?
She was two years old.

2 When did Sadako become sick?
She became sick at the age of twelve.

3 What did Sadako believe, if she made a thousand paper cranes?
She believed that it was possible for her to get well (if she made a thousand paper cranes).

4 What did people all over the world send here after Sadako died?
They sent *sembazuru* (after she died).

5 Why is the Atomic Bomb Dome more than just a building?
Because it shows the terrible power of the bomb.

6 How many people were killed by the atomic bomb?
About 130,000 people were (killed by the atomic bomb).

② 意見や感想を述べる文を書く。

I think that we must keep the world peaceful.

I don't want to listen to such a sad story again.

③ 要約文を構成する。

When the atomic bomb was dropped over Hiroshima, Sadako was only two years old. She became sick at the age of twelve. She believed that it was possible for her to get well if she made a thousand paper cranes. She died, but many people over the world sent *sembazuru*. I don't want to listen to such a sad story again. About 130,000 people were killed by the bomb. The Atomic Bomb Dome shows the terrible power of the bomb. I think that we must keep the world peaceful.

④ 発表（英語通信、スピーチなど）：余裕があれば実施する

- まとまりのある文章を書く力を育成するためには、生徒にとって身近で興味深いテーマを設定し、語順や文構造の指導、モデル文・表現集の提示といった指導の手立てにより、生徒のつまづきを解消する支援を行い、書くことへの抵抗感を和らげることが大切である。
- なお、平成24年度からの新学習指導要領の円滑な導入に向け、新学習指導要領の趣旨を生かした取組が望まれており、以下のようなポイントを意識した授業づくりが大切である。

指導のポイント

〈新学習指導要領の円滑な導入に向けて〉

① 繰り返し指導の大切さ

新学習指導要領では、「～第1学年における学習内容を繰り返して指導し、定着を図る～」とあり、3年間を通じて、大事な部分については計画的に繰り返して指導することが大切である。

② 効果的な文法指導の工夫

新学習指導要領には、「関連のある文法事項はまとまりをもって整理するなど、効果的な指導ができるよう工夫すること。」とあり、文法事項を指導する際、一つ一つの事項の指導において英語の特質を理解させるだけでなく、相互に関連のある文法事項についてはより大きなカテゴリーとして整理して理解させることが大切である。(例)関係代名詞、不定詞、現在分詞、過去分詞、形容詞、形容詞句等を、「修飾」というカテゴリーでまとめて復習することが考えられる。

③ 小学校との情報交換・交流等の大切さ

新学習指導要領には、「小学校における外国語活動との関連に留意して、指導計画を適切に作成するものとする。」と明示されている。中学校教員は、小学校との情報交換・交流等を深め、外国語活動の指導において、どの程度の素地が養われているのか、また、扱われている単語や表現などについてもきめ細かく把握した上で、小学校での学びをどのように中学校の英語学習に生かしていくかを工夫することが必要である。

④ 語彙の充実

今年度入学した中学校1年生が3年生になった時に、新中学校学習指導要領が全面実施となり、教科書が1200語程度のもに変わる。その際、生徒に急激な負担が生じないように、移行措置期間中から少しずつ指導する語彙を計画的に増やしていくなどの配慮が必要である。また、その生徒が高校1年生となった時には、高等学校でも新高等学校学習指導要領に基づいた指導が開始されるため、英語を使って進められる授業に慣れさせておく必要がある。

⑤ 主体的に英語学習（授業及び家庭学習）に取り組む意欲・態度の育成

- ・ 中学校の英語教育は、生涯学習の観点から、将来的に英語を学ぶ基礎を養うものであり、中学校3年間を通して、高校へ行ったらもっと英語を勉強したいという気持ちをもたせることが望まれる。よって、生徒にとって「分かる授業」の実践を心がけ、「分かる楽しさ」「できる楽しさ」を実感させることが大切である。
- ・ 学校の授業では、何回も書いたり、読んだりするなど定着のためのドリルの時間を、十分に確保することはなかなか難しい状況である。よって、主体的に英語学習に取り組む意欲・態度を育成し、確かな家庭学習習慣を身に付けさせることが大切である。

キ まとめ

「聞くこと」、「読むこと」については昨年度同様、おおむね良好である。また、今年度も、まとまりのある英文を読んで要点を把握したり、流れを理解したりすることについて良い結果が出ている。「書くこと」については不十分な結果となり、特にまとまりのある英文を書く力に課題を残す結果となった。英語を使って表現しようとする意欲は年々向上しているもので、それを支える基本的な文法事項の定着が望まれる。

なお、語彙指導については、県教育委員会で発行している「青森県版中学校英単語集」を活用することが考えられる。